広報

さめがわ

1997 AUG.
8
平成9年 No.524



目次

都市との交流 …… 2
独身男女52人鮫川村に集う …… 10
むらのできごと …… 12
クローズアップ …… 14
史・資料を探る、文芸 …… 15
ふれあいひろば …… 16
くらしの情報BOX …… 18

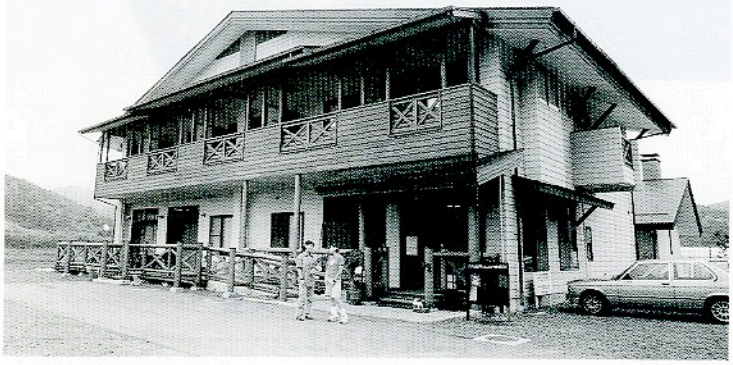
特集

都市との交流で鮫川村の良さを知る

村では、都市部に住む人たちに、自然環境豊かな鮫川村で農村の生活体験をしてもらい、産業の振興に結びつけようと、交流施設「ほっとはうす・さめがわ」を拠点に「都市との交流事業」を進めています。今月号では、都市との交流事業を通して、鮫川村について考えてみました。



昨年に引き続き農業体験をする東京都目黒区の皆さん



葉貫地内にある交流施設「ほっとはうす・さめがわ」



交流施設「ほっとはうす・さめがわ」を利用した方から次のような便りが寄せられましたので紹介します。

（前文省略）

鮫川村の豊かな自然と同じくらいに、村の人々の大らかな心を感じてうれしい限りです。

鮫川村には、心をいやす力があふれているような気がします。

鮫川村の夜空の星を心に刻んだ子供たち、そして大人たちも多かったことでしょう。

口いっぱいに頬張った、じゃがいものおいしかったこと。

私たちだけでなく、自然に触れることの少ない都会の人たちが鮫川村を訪ねて、豊かな時間を過ごせることを願っています。

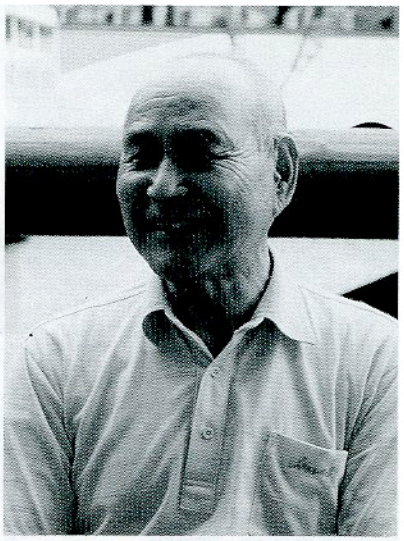
元気をもらった鮫川村の皆さんにお礼を申し上げ、日常生活の中で頑張っていきたいと思っています。

東京都江戸川区

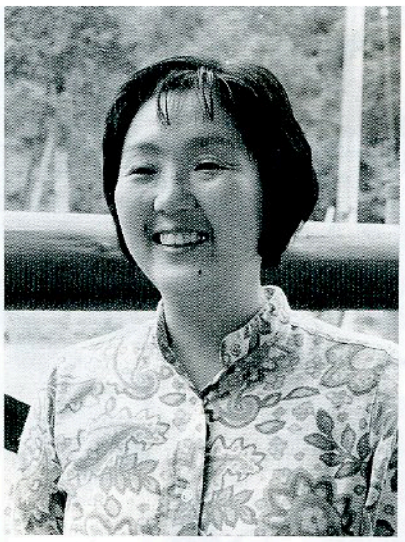
小松　節子

特集　都市との交流

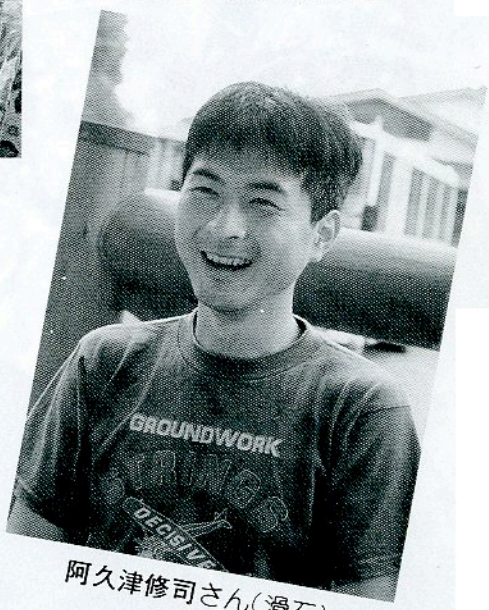
人情味の厚さを感じる



佐藤幸之輔さん（新宿）



青木美津子さん（棚橋）



阿久津修司さん（滑石）

座談会出席者

佐藤幸之輔さん（新　宿）
青木美津子さん（棚　橋）
阿久津修司さん（滑　石）
高野　博光さん（発地岡）
藤田　キノさん（伊柳沢）
鈴木　治男（司会・交流施設所長）

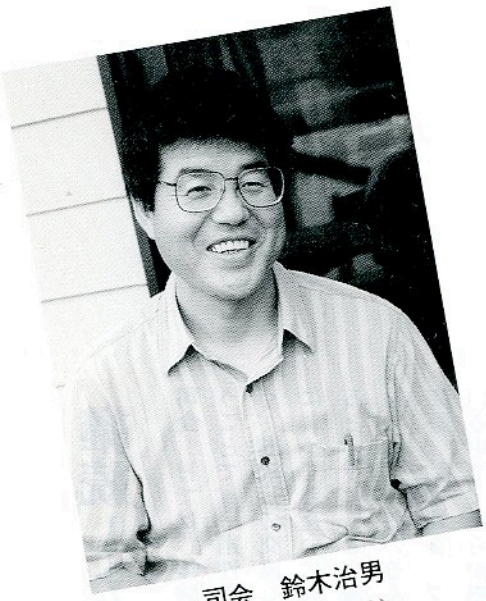
村では、交流施設「ほっとはうす・さめがわ」を拠点に「都市との交流事業」を進めています。都市部の方々の来村は年々増えてきており、村としても体験交流型の事業を目玉として、都市との交流を図っているところです。旅行スタイルにおいても、農山村の豊かな自然の中で心をいやしたいというふうに変わりつつあり、その点からみても農山村への関心がかつてなく高まりをみせてきています。その流れを、村づくりにどのように生かせばよいか、皆さんの意見をお聞かせください。

（司会あいさつ）

過疎というのが魅力

司会　都市部から鮫川村に移住されてきた方々の率直な意見を伺いたいと思います。鮫川村に実際住んでみてどうだったのかという点についてお聞かせください。

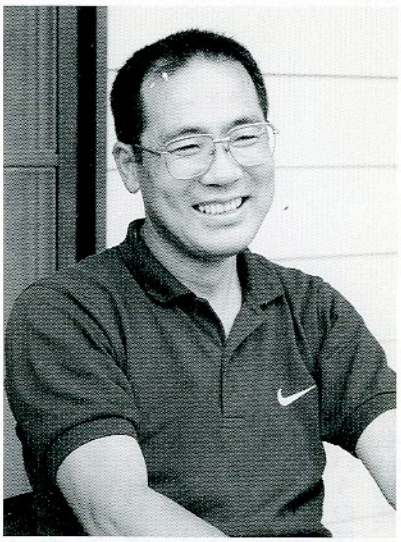
佐藤　この村に来た動機というのは、コンクリートだらけで人がいっぱいの都会の生活から開放されたいということだったんですよ。この村に来る前に、竹飛歩学園の記事を新聞で見たんです。それが過疎の村で、廃校になった学校を利用しているということでした。私たちには過疎というのが魅力なんです



司会　鈴木治男
（交流施設所長）



藤田キノさん（伊柳沢）



高野博光さん（発地岡）

よ。

住んでみて一番に感じたことは、水のおいしさですよ。それから、来て早々に回りの人が、全然面識のない私に、都会から来たのでは不自由だろうといろんな物を届けてくれたり…。人情味の厚さを感じました。それと空気がきれいだということと四季の区別が体感できること。十年経った今でも、ここから離れたくないと思っていますよ。

青木　私たち夫婦は、出身が東京と埼玉で、子どものころに田舎に遊びに行ったという経験がないんです。東京にいたころから自然が好きで、キャンプなどをしてたんです。いざ引っ越そうというときに、豊かな自然の中で子どもたちと暮らしたいということがきっかけでした。子どもたちも、帰りたいと言ったことは一度もありませんね。親が東京なので時々行くんですが、一晩で疲れちゃって、こちらに戻って来ると深呼吸ですよ。

作る喜びを体験

司会　高野さんは「コメケートはいいじゃない会」（首都圏の若者で構成する農業体験グループ、以下「コメケー会」という）と交流していますが、どのようなことをしているのでしょうか。

高野　交流というよりも受け入れです。今年で五年になりますが、米作りが主体です。それで、農村の生活はこんなものだと、飾らずにやっているわけです。

司会　米作りをしたい、農村の暮らしに触れたいというのが彼らの動機だったと思いますが…。

高野　田植えから稲刈りまで、また、手作りハムや凍み餅、漬物などの食品加工をやったりと、それが一年の流れですね。彼らは、飾り気のない本物の自然を一番要求しているみたいですね。無農薬で稲を作ってみたり…。

司会　村の若い人たちは、農家の生まれでも農業から離れてきているし、農家の暮らしそのものに自信を失ってきているのではないかと思います。逆に、コメケー会の人たちは、大学生や二十代、三十代前半の青年です。そういう人たちが米を作ってみたいと泥にまみれてやっているわけですね。どこに魅力を感じてやっているのでしょうか。

高野　私としては、農薬の恐ろしさや環境破壊の恐ろしさを理解してもらいたいと思ってやってるんです。彼らとしても、実際に自分でやってみて実感したいのでしょう。無農薬の野菜や米が欲しいと言ったって、実際に自分で作ってみなければその苦労が分からないわけです。それが難しいから楽しいのかもしれませんね。本物を作る喜びというのがあるのかなと思います。

青木　このような田舎に来て、そのような体験をするという気持ちはよく分かります。お金を出して農業体験ができるコースもたくさんありますが、でもそれは、八割ぐらいは設定されていて、残りの少しを体験するだけですから。コメケー会の場合、そこが違うんでしょうね。私たちも結局はそれなんですよ。キャンプなどで自然を味わうのも確かに楽しいですが、日常生活の中での感激は違いますから。

佐藤　人間の一番の喜びは「作る」ということですよ。自分の力で物を作るということは何事にも勝る楽しさですよ。都会の人たちは、その機会を与えてくれる所がどこかにないかなと思っているわけですよ。

継続した交流を望みたい

司会　村では、体験型交流ということで、一過性のものではなく、継続して交流していくことによってお互いに利益を得られるというような交流が本物だと思ってやっているんですが。

高野　私の場合、交流を続けている中で、彼らが感性とか情報を知らず知らずのうちに置いていってくれてるんだなと思っています。農業体験を受け入れて、もうけようという感覚は全然ないんです。しかし、そこから情報が入ってきたり、彼らがいろんなことを知らず知らずのうちに教えてくれたことで米が売れるということもあるんですよ。

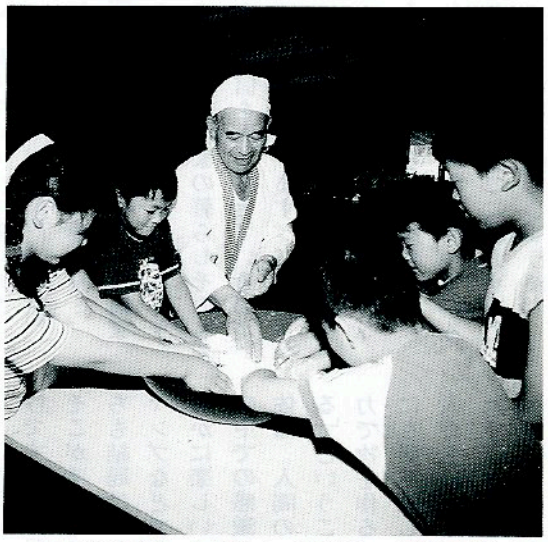
司会　阿久津さんは先日、ほっとはうすで東京大妻女子大の学生たちと郷土食を作りながらの交流会に参加したわけですが…。

阿久津　彼女たちは、緑がいっぱいの自然環境がいいとか、静かだとかという印象を持ったようです。とりわけ農業に興味があるということではないのでしょうが、田舎に対して興味があるというのはよく分かりました。

私は現在、福島県の4Hクラブ（農業青年の団体）の副会長をやっているんです。その中で、農業者同士の交流はしていて、それはそれで重要だと思うんですが、都会の人で農業に興味があるけどやったことがない、そういう人たちとの交流も望んでいるんです。また、同世代の人の考えを聞くチャンスがないので、交流の場があればいいなと考えています。

利用者はなんと一万人

司会　交流施設「ほっとはうす・さめがわ」がオープンして三年目を迎えましたが、昨年度はおよそ一万人の利用者がありました。交流施設の目的は、体験交流型のお客様を迎え入れるというのが一つ、村の人にとっても保養施設であるということや子どもたちの体験学習施設という位置付けもあります。昨年の夏休みのころから体験交流のお客様を入れるようにしています。その中でも特色のあるものとして、郷土食作り夕食交流会があります。この地域ならではの季節の物を使って郷土食を一緒に作り、それらを食べながら交流を深めるということです。それが非常に好評で、年に二度、三度と来てくれる団体もあります。ここで使う食材は、可能な限り地元の物を使っています。そういう事業に参加してもらっているのが藤田キノさんです。昨年の夏に「たぬき野菜倶楽部」というグループができまして、その中の女性部の方々が主として郷土食作りを担当しています。また、藤田さんには、柏餅作りや餅つき体験の指導もしてもらっています。藤田さんから見て、お客様の反応はどうでしょう。



交流施設「ほっとはうす・さめがわ」の関連施設として、今年4月にオープンした「体験館」は、村内の子どもたちの体験学習の場としても利用されています。

地元青年と夕食を共に

東京都府中市　**中川瑞穂**さん

大妻女子大の西成典子先生の企画による鮫川村での「食文化交流会」に同行した私にとって、またとない貴重な体験であり、楽しい二日間でした。そこで、思いつくままにいくつかの感想を述べてみたいと思います。

まずは、この交流会を自然豊かな日本の原風景や食文化をそのままに残している鮫川村に設定したことはすばらしいと思います。こ



郷土食を囲んでの食文化交流会

藤田　この地域の料理というのは百姓の料理で、上手にはできないけどね。都会にはない味ということで大変喜ばれているんですよ。調味料というのはあまり使わないので、素朴さがいいのかもしれませんね。私たちには、それが生活の一部として当たり前のことでも、都会の人たちにすれば一つ一つが新鮮なことなのかもしれませんね。歓声を上げながら作るんですよ。

司会　お客さんが特に驚くのは、野菜の甘みが違うということなんですよね。

阿久津　この間の大学生も、トマトがすごくおいしいって言ってましたね。

司会　交流を通して、鮫川村の良さというものを感じたと思うんですが。

藤田　鮫川村の生活文化の豊かさというものをつくづく感じています。これも農業があってこその文化だと思いますね。この伝統文化を残していかなければならないと思います。食材も健康にいいものばかりですから。郷土料理を生かし、ますます交流を深め、都会の人たちに村の伝統文化と農村の大切さを理解してもらいたいと思いますね。そして、共に手をたずさえながら生きていける社会になることを願わずにはいられませんね。

村の活性化は人との交流から

司会　この地域で作られた作物が市場に出て、誰がどのように食べているのかが見えない。それと、このような高冷地で生産性も落ち、コストそのものが高くなるわけです。そういうことを理解してもらって、それが価格に反映してもいいですよというお客様をどれだけ作るかというのが大事だと思います。鮫川村の場合、まだまだ点にしかなっていないんです。これを全体的にどう広めるかなんですが。

佐藤　点から線につなげようとしたら、まず村に人が入ってくることですよ。その方法の一つにホームステイがあると思います。いろんな体験を通して交流し、そういう人が何人かでも入ってきて、次々と口コミで広まれば、それほど費用がかかるものではないですから。人が入ってくれば、いくらかでも村の活性化につながると思います。

司会　今のところは、ほっとはうすが受け入れの大きな施設になっています。昨年からみると、繰り返し来てくれるという人が多いんです。佐藤さんの言うとおり、人が入ってくればお土産品などの販売も増え、商業の振興にもなり、また、地元の食材の需要が高まり、作物を商品に変えていくという道もできていれは、学校側の計画だけでは実施できないし成立しません。受け入れ側の鮫川村の皆さんの理解と協力が欠かせないと思います。

うれしかったことは、村長さんをはじめ、「ほっとはうす・さめがわ」で働くお母さん方が、誠意を持って接してくれたことです。

印象的だったことの一つは、初日の夜、地元の若い農業者などが集まってきて夕食を共にし語り合ったことです。日焼けした顔、がっしりとした体、たくましい腕、頼もしいの一語に尽きます。

これからますます、都会の人たちの農村に対する理解が大切になってくるのではないでしょうか。

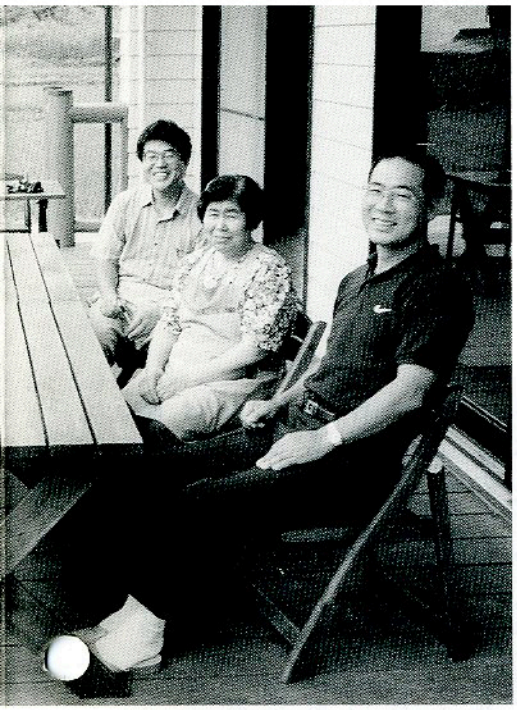

餅つきに力が入る中川さん（左）

きます。そこから産地直売につなげるという道もできてきます。

もう一つ、交流の大切さを考えると、鮫川村の財政は地方交付税が一番大きな財源です。地方交付税の算定のほとんどが人口割です。現在、交付税の算定に交流人口を入れるという動きが出ています。それは、都市部の住民が農山村に行くことで心をいやし、労働力が再生できたり、安全な食糧を求めているということです。そういう人たちに応えられる条件がまだまだ少ないということで、そこへ援助をしようというのがねらいだと思います。

それから、農林業が果たしている役割を知ってもらうことです。例えば、牛を飼うことで堆肥ができ安全な野菜や米が生産され、山林を手入れすることによって保水力を生み、水がまんべんなく注ぎます。それらが下流の都市部の生活や産業の基盤となっています。そういうことを都市部の人たちが理解してくれるという条件をどのように作っていくかが大事だと思います。

佐藤　これには相当なピーアールが必要ですね。



座談会に出席した皆さん（交流施設で）

交流は自分たちのため

高野　例えば、大規模な水田農家だとか、酪農家などの受け入れ農家をたくさん作り、その中で交流を図り、そこで本物を食べたとき人間は感動するのだと思います。

見ず知らずの家にホームステイをすることは、勇気が必要だと思いますが、そういう人が広まれば、いつかは効果が出てくると思います。そういうことに行政側が応援してくれれば、もっと村の活性化につながり、農家もいい物を作ろうと思います。それが少しずつ浸透すれば、都市部のためでなく、自分たちのためにもなると思いますね。

司会　生産者と直接交流をしたいという人はかなりいると思います。そういう交流を自分の経営にうまく取り込んでいくという農家がどれだけ多くできるかが、村の農林業を支えていく上で重要なことだと言えますね。

青木　農業に自信を持ち、自分たちの食生活に自信を持っている農家は魅力がありますね。

高野　農家を活性化するとか、村を活性化するということで都市との交流を全面に打ち出すのであれば、行政がバックアップして、そういう農家を作らなければならないと思います。そして、一過性の交流ではなく、年に何度も交流しなければ…。そうすれば結局、米や野菜を理解してくれる、鮫川村を理解してくれるのだと思います。

受け入れ体制を整えたい

阿久津　ホームステイのようなことをヨーロッパでもやっているんですが、農家と一緒に同じ作物を作り、同じ作業をする形と、隠居みたいな形で、勝手に泊まりに来て余暇を過ごすという形と二種類のタイプがあるようで

来年もまた来たい

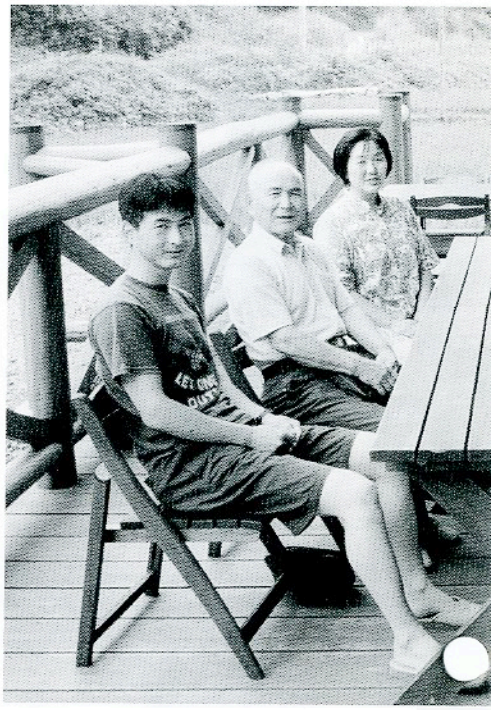
大妻女子大学（東京都）　東樹貴子さん

鮫川村を後にして、東京に着いた今、あの緑いっぱいの風景が、すべて夢だったのではと思えてきます。鮫川村を訪れた二日間、すっかり自分の住む街を忘れ、夢中になっていました。

東京駅から我が家へ向かう電車の中から見える風景は、長方形のビルが建ち並び、薄暗くなった空気にビルの明かりや街のネオンが異様なまでの光を放っています。どこか殺伐とし、どこから湧いてきたのか不思



そば打ちに挑戦する東樹さん



すね。

高野　後者の方は、その土地の良さ、その土地でできた作物の良さが分からないですよ。作った人の思いが通じないわけですから…。

阿久津　そうですね。しかし、人にはいろんなタイプがあるというわけですよ。人に干渉されたくないという人もいますし、農家と一緒に同じ作業をして、その土地の暮らしを実感したいという人もいます。それはあくまでもヨーロッパの話ですから。私はどちらかというと、農家と一緒に交流する方が楽しいと思います。それには、受け入れ体制がきちんと整っていることです。家族の理解があればやってみてもいいなと思いますね。

村の良さを改めて知る

司会　これからの村づくりに向けて、体験交流と農林業を抱き合わせて話し合ってきましたが、村の魅力というと農山村の原風景が維持されていること。そのためには、農林業を振興することだと思います。ただ単に観光客を受け入れるのではなく、観光が農林業を耕すというとらえ方が体験交流のあり方だと思います。

　最後に、改めてこの村について考えたとき、魅力とは何なのかをお話しいただきたいと思います。

佐藤　最初にもお話しましたが、水がおいしいことと人情が豊かなところ、空気がきれいなところ、そして、四季の区別がはっきりしているところですね。ですから、情緒ではなくて情操観念が自然と養われるところだと思います。

青木　水と空気はもちろんですが、すべてのことにゆとりが感じられるところかなと思いますね。都会に住んでいると、常に圧迫されているような感じなんです。ここには、それがないんです。

高野　例えば、農薬の航空防除を住民自身が「やめる」と言ってやめた市町村は鮫川村以外にないというように、自然を破壊しないという意識がある村なのかなと思いますね。

阿久津　自然が豊かで水がうまいということかなと思いますね。もちろん欠点もあるでしょうが、それらを差し引いてもいいところが残っているということは、それだけ魅力があるんでしょうね。

藤田　私は、昔から受け継がれた伝統的な食文化、生活文化の豊かさが魅力だと思います。これからも守っていかなければならないですね。

司会　都市との交流を通して、私たちが気付かなかった、失いかけていた村の良さを改めて認識したということは大きなことだと思います。

　今日は、いろいろな話が出ましたが、これからの村づくりに生かしていきたいと思います。

　長時間にわたりありがとうございました。

議なほどの人間がひしめきあい、どことなく冷たさを感じてしまいます。山や川は見る影もなく、これが私の住んでいる街なのだと改めて認識しました。

　鮫川村には、美しい山や川、森があります。そして、澄んだ空気、青々とした空が広がっています。さらに、都会の人々が忘れかけている人間の温かさや古くから受け継がれてきた伝統があります。地元の方にとっては当たり前のことかもしれませんが、私にはとても新鮮で、心底感動しました。

　また、何よりもすばらしいと思ったことは、地元の方々の伝統的な文化に対しての自信や誇りを肌で感じることができたことでしょう。

　都会へ戻り、また以前と同じ生活が始まりましたが、鮫川村で感じたさまざまな思いを、いろいろな場面で生かすことができれば最高だと思います。

　これからも鮫川村との交流を続け、来年もまた来たいと思います。

独身男女52人 鮫川村に集う

県南青年交流実行委員会では、七月二十七日、鮫川村を会場に独身男女の集いを開催しました。この集いには鮫川村のほかに棚倉町、浅川町、表郷村東村などから五十二人が参加。農業者トレーニングセンターでバレーボールを楽しんだあと、鹿角平観光牧場でパラグライダー体験飛行やバーベキューを行い、交流を深め合いました。



さわやかな高原の空気を満喫



青空の下で会話も弾む参加者



集いに参加した皆さん

県南青年交流実行委員会

県南青年交流実行委員会は、独身男女の交流を目的として平成８年８月８日に発足しました。15人の実行委員により各種イベントを企画し、これまでに次の事業を行いました。

■**平成８年10月26日～27日**＝バンジージャンプと温泉の旅（山形県朝日村）
■**平成８年12月22日**＝クリスマスパーティー（棚倉町）
■**平成９年２月16日**＝ボウリング大会（棚倉町）
■**平成９年７月27日**＝独身男女の集い（鮫川村）
■**平成９年８月23日～24日**＝激流ゴムボート下りと日本海の旅（群馬県・新潟県）





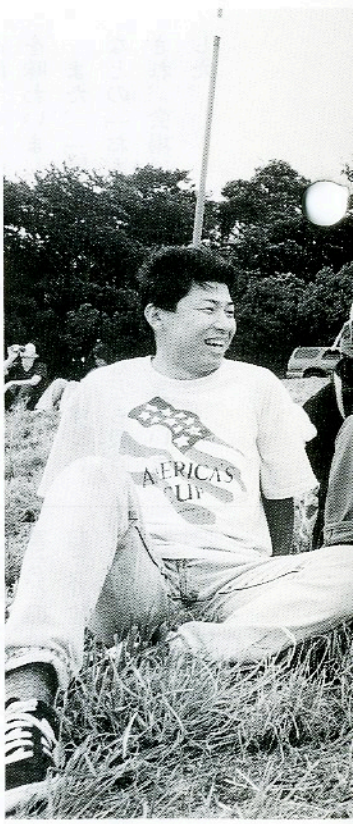
きまってるでしょ



バラグライダーを運ぶお嬢さん



笑顔満点のＭさん



むらのできごと

広報にあなたの写真が載りましたら
さしあげますのでご連絡ください。
（☎49－3111 内線214）

オオムラサキが羽化

西野小緑の少年団の児童たちが飼育してきた国チョウ「オオムラサキ」のさなぎが羽化し、7月16日に放チョウ式が行われました。

同校では、オオムラサキの幼虫のえさとなる「エノキ」を、地域づくりグループ「夢楽会議21」の支援を受け植樹し、幼虫の段階から成長の様子を観察してきました。児童たちは、色鮮やかな羽をひろげたオオムラサキの姿に歓声をあげていました。



羽化を喜ぶ児童たち

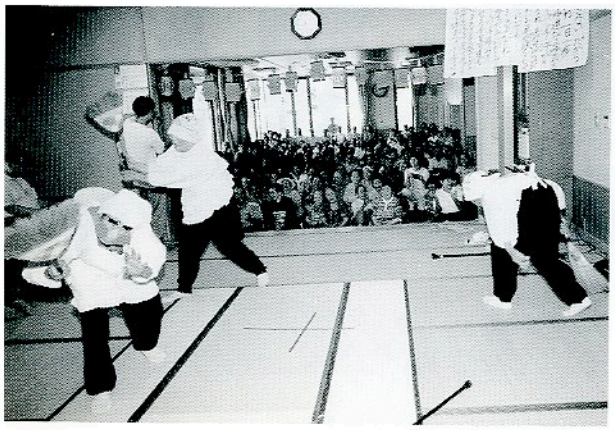
第一回ふくし夏まつり

村と社会福祉協議会の主催による「ふくし夏まつり」は七月二十日、「共に生きる社会をめざして」をスローガンに、高齢者総合福祉センター「ひだまり荘」で開かれ、高齢者や障害者福祉への理解を深めました。

総勢百三十人の村民ボランティアの協力のもと、高齢者疑似体験やひだまり荘利用者による歌や踊りの発表会、一般参加者によるカラオケ大会などが行われました。

疑似体験コーナーでは、来場者が特殊メガネや耳せん、おもりなどを身につけ、高齢者の状態を体験。日常生活の不便さを味わいました。

また、「屋台コーナー」、金魚すくいなどの「おあそびコーナー」なども設置され、会場はたくさんの人でにぎわいました。



踊りを披露するひだまり荘利用者

お元気ですか

夏バテを防ぐ



村国保診療所
菅野 誠 先生

夏本番。暑い日が続きますが、皆さん体調を崩していませんか。暑い日には、たくさんの汗が出るために体内の水分が多量に失われます。汗には、水分だけでなく、ナトリウム、カリウム、カルシウムなど、体に必要なミネラルも含まれており、これらの体内バランスが崩れると消化機能が低下し、胃腸の働きが悪くなります。そのために食欲が落ちて夏バテを招く原因になってしまいます。また、高齢者では体に水分不足があっても、のどの渇きを感じにくく、脱水症状を起こしやすくなります。高齢者が脱水症状を起こすと、不眠、不穏、意識障害などの精神症状や脳梗塞を起こす危険があります。

最近、ジュース類や炭酸飲料がよく飲まれていますが、これらには糖分がたくさん含

マウンテンボードのゲレンデを開設

鹿角平観光センター（須藤宏代表取締役）では、鹿角平草地内の一部に、今、若者を中心に人気を集めている「マウンテンボード」の専用ゲレンデを開設し、七月六日にオープン式を行いました。

式では、利用者の安全を祈願し神事が行われたあと、芳賀村長らが祝辞を述べました。

続いて、日本オールテレインボード協会のインストラクターによる模範滑走やライセンスが取得できる講習会などが行われ、県内外から訪れた若者たちは、さわやかな高原の風を受けながらゲレンデの感触を楽しみました。利用料金は次のとおりです。

◎ゲレンデ使用料（傷害保険料含む）＝一日・千五百円、半日・千円、◎マウンテンボードレンタル料＝一日・三千円、半日・千五百円



ゲレンデは大勢の若者たちでにぎわう

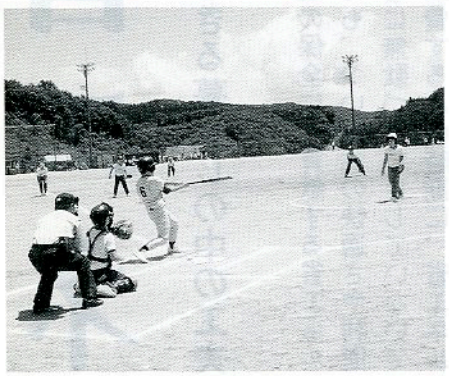
少年少女球技大会

村教育委員会、校長会などの主催による鮫川村少年少女球技大会は７月20日、青少年広場で開かれ、各小学校から男女混合の12チームが参加し、ソフトボールに熱戦を展開しました。

選手たちは、真夏の太陽のもと、家族の声援を受けながら、日ごろの練習の成果を十分発揮しました。

結果は次のとおりです。

◎優勝＝鮫川小Ａ、◎２位＝鮫川小Ｂ、◎３位＝富田小



大人顔負けの試合展開

消防操法 県南大会で準優勝

県南地方振興局と県消防協会白河・東白川両支部の主催による「第十三回福島県消防操法県南地方大会」は八月三日、東村の東風の台公園グラウンドで開かれ、県南地区からポンプ自動車と小型ポンプの両部門に合わせて二十四チームが出場し、消防技術を競い合いました。

村消防団からは第五分団が出場。日ごろの練習の成果を十分に発揮し、小型ポンプの部で見事準優勝に輝きました。今後ますますの活躍が期待されます。



気合い入る選手たち

まれており、飲み過ぎると体内の血糖値が上昇して空腹感を感じにくく、肝心の食事ができないという悪影響を及ぼします。汗をかいたときは、なるべく麦茶やウーロン茶などで水分補給をしてください。多量の汗をかいたときには、スポーツドリンクも有効です。

暑いときは、食事も冷や麦やざるそばなど、あっさりしたものに偏りがちですが、夏バテを防ぐには、肉、魚、卵、大豆など、良質のタンパク質を含む食品をしっかりと摂る必要があります。また、エネルギー源としての脂肪分やビタミン、ミネラルの豊富な野菜、特にピーマン、トマト、ニラ、カボチャといった緑黄色野菜をたっぷり食べるようにしましょう。

ほかに、夏バテの原因としてクーラーが問題になっています。室内温度と外気温に激しい温度差が生じると、自律神経に変調をきたし、頭痛、肩こり、冷えだるさといった症状を起こします。外との温度差をできるだけ五度以内に抑えるように調節し、上手にクーラーを利用しましょう。

夏の省エネ

私たちにできる暮らしの中の工夫

限りある資源を守り、地球環境の保全にも貢献する省エネルギー。その大切さは分かっていても、つい生活の快適さや利便性を求めて、知らず知らずのうちに無駄づかいはしていないでしょうか。一年中で最も電力を消費するこの時期に、省エネルギーについて考えてみましょう。

電気製品を賢く上手に使う

冷し過ぎのエアコン、つけっぱなしのテレビ……。使い方しだいで電力の消費量を減らすことができる電気製品が、私たちの身の回りにはたくさんあるはずです。ここでは、電力消費量の多い主な機器について、それぞれを賢く上手に使う方法を紹介します。

エアコン

▼室温をこまめに調節

部屋の冷やし過ぎは、電気の無駄づかいだけでなく、健康にもよくありません。室温は二十八度を目安にしましょう。

▼ドライ機能の活用

湿度が低いと、同じ室温でも涼しく感じるものです。二十八度で湿度八〇%の部屋より、同じ二十八度で湿度五五%の部屋のほうがより涼しく感じるということです。消費電力の少ないドライ機能を上手に活用し、より経済的な冷房を心がけましょう。

▼エアフィルターの掃除

エアフィルターにほこりが詰まると空気の流れが悪くなり、ファンを回す電力を余計に消費してしまいます。一日八～十時間運転した場合、約二週間で五%程度風量が低下します。二週間に一回は、エアフィルターに詰まったほこりを取り除きましょう。

▼窓には日よけを

外から入ってくる熱の二～三割は、窓を通じてのものです。冷房効果を高めるため、カーテンやブラインドを利用して太陽熱の侵入を防ぎましょう。

▼扇風機との併用を

同じ温度の空気でも、風として体に当たると涼しく感じるものです。冷房と扇風機を同時にうまく使えば、設定温度を高めにしても十分な涼しさが得られます。

その他の家電製品

▼照明器具の手入れを

照明器具を掃除するだけで、明るさが二〇～三〇%も増します。電球やかさなどのほこりや汚れをこまめに取り除きましょう。また、電球は早めに取り替えましょう。

▼冷蔵庫の中はすき間を

冷蔵庫に食品を詰め込み過ぎると冷気の循環が妨げられ、四～五%も電気を多く消費してしまいます。庫内にすき間をつくれば、食品の出し入れが短い時間で済み、無駄な開閉も少なくなります。

▼テレビの主電源は切る

長時間外出するときや寝る前には、リモコンの電源だけでなく、テレビ本体の「主電源」を必ず切りましょう。

用途に合わせて選ぶ

電気製品を上手に使うのはもちろんですが、購入するときに、それぞれの用途に合わせた効果的なものを選ぶのも省エネ対策の1つです。テレビや洗濯機、冷蔵庫などは部屋の広さや家族の人数などを考えて決めるようにしましょう。また、エアコンや照明器具などは、省エネタイプのものを選ぶように心がけましょう。

新しく住宅を建てたり、増改築したりする場合に、断熱材の使用（標準的な家庭で冷房エネルギーが約3割節約）や太陽光発電などのシステムを導入するのも一案です。

省エネについての電話相談

〔受付期間〕八月三十一日まで（土・日・祝日を除く）
〔受付期間〕午前十時から十二時、午後一時から五時
〔電話番号〕03-5543-3013（財団法人 省エネルギーセンター）

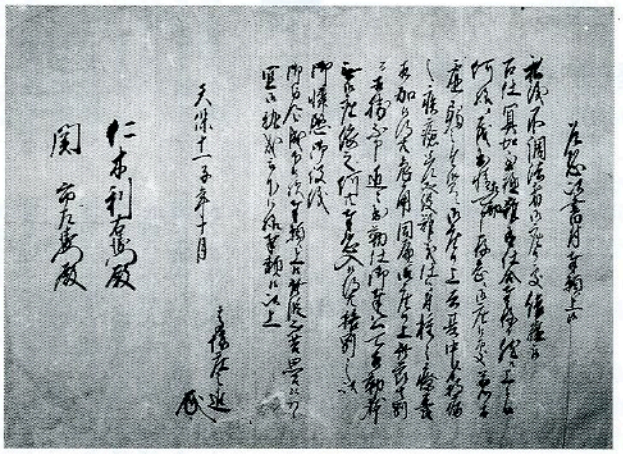
史・資料を探る
村史編さん室

赤坂中野陣屋勤め役免除願

天保十一子年（一八四〇）十月・高坂まき家文書

天保九年四月、千葉小見川藩主内田豊録領村替のため代知分領として陸奥国白川郡内の赤坂西野村千八拾三石壱升八合（塚本、西野、石神）をはじめ、赤坂中野村（中野、真坂）、西山村（戸倉、宝木）、仙石村、大久田村、山上村、論田村、石井草村、赤坂東野村之内、高合八千石、外に田畑見取場壱反八畝歩、林百五拾町歩壱ケ所が渡され、同年七月赤坂中野陣屋が設けられ、代官として関市左衛門、仁木利右衛門が赴任しました。新赴地での十数カ村に及ぶ支配業務は、二名の代官では処理しきれないので、村々名主の中から陣屋勤め役を一年交替で当たらせました。これが年番制で、幕領塙代官所においても同制度が行われ、年番名主と称され、在地の村役人であるため村々の事情にも精通していましたから、何かと好都合でありました。

天保十一年、今から百五十七年前のこの文書は、塚本村名主高坂庄之進が年番名主として勤めるよう命じられたものの、持病療養がはかばかしくなく辞退。勤め役御免を願い出たものです。陣屋勤めは村役人にとって名誉なことで、これを断ることは無念であったことと思われますが、病とあっては致し方のない仕儀、丁重な文意を尽くしたものとなっています。



乍恐以書付奉願上候

私儀不調法者に御座候処、結構召し仕わされ冥加至極有難き仕合わせに存じ奉り候、然る上は何様にも出精相勤め申すべき存念に御座候処、兼て虚弱の生質に御座候上、去る夏中より持病の疾癒着発し難義仕り候に付、種々療養相加え候得どもとかく同扁に御座候上、此の節はわけて相勝れ申さず、近々出勤仕り御奉公相勤むべき躰御座なく、これに依って何とも恐れ入り奉り候得ども格別の御憐愍をもって御役儀御免成し下され候様願上奉り候此段苦しからず思召し候わば、宜しく御執り成し下さる様願上奉り候、以上

高坂庄之進

天保十一子年十月

仁木利右衛門殿

関　市左衛門殿

※注　冥加至極＝過分なること、生質＝生来の資性、同扁＝変わらない状態、憐愍＝あわれみの情、花押＝署名の下に記す「書き判」

文芸

俳句

一村を過ぎるも山脈青く澄む　福島市　中井　恒峯

言葉には出さぬいたわり大暑かな　二反田　太平　太平

荒梅雨の灯台明り灯を包み　いわき市　金澤　暁舟

週末へひぐらしの声暮れ残る　道少田　山本　朗史

咲き誇るかげをゆらして牡丹かな　新宿　大池　魚水

月見草月の雫を吸って咲く　新宿　斉須　信子

台風接近木々のざわめく前の山　前田　金沢三津子

大土手の高き草丈刈り進む　押目　北條素人坂

畦なりに植田の曲がり峡の村　白河市　矢部　正子

サイロ積梅雨の来ぬ間に積み終る　反田　小山田清哲

力得て草木が育つめぐみ雨　横座　矢吹　茂

ひぐらしや終生農の鎌を研ぐ　道少田　山本五十鈴

短歌

一湖にて五色に水をかがやかす　沼野沢　本郷　チヨ
五色沼湖の底なる神秘

夢も消え希望も失せて山峡に廃　鍬木田　松本　一郎
墟と化せし農家が一つ

この家に我より古き擬宝珠なり　名下　須藤美代子
今年も手鈴の如き花持つ

ヤマンガのしばらくぶりに見事　江竜田　芳賀　洋郎
咲き秋の味覚がたのしみなりき

お金の嵩が愛に代わるや慣れ果　本坂　藤田　初枝
てて光の消ゆる少年の瞳は

下刈りに育てて置いた桐の木が　関口　藤田　マサ
杉森の合間に花咲きて見ゆ

たちまちに木々の緑の濃くなり　酒垂　石井　カヤ
て澄みし大気を胸深く吸う

靴下のずり落ちいるは無精者　本坂　藤田　末光
今の違いはセンスの違いか

ふれあいひろば

広報さめがわ七月号で、村内の「滝」を特集したところ、各テレビ局をはじめ県内外からの問い合わせが相次ぎ、福島中央テレビとNHK福島放送局では取材に訪れました。福島中央テレビでは八月五日、ゴジてれシャトルの番組の中で村内の四つの滝を紹介。また、NHKでは、江竜田の滝を八月十四日に県内放映、二十日にはなんと全国放映されました。

番組を見た須賀川市の長谷川さんと福島中央テレビで番組を担当した遠藤さんから次のようなお便りが寄せられましたので紹介します。

テレビ放映に感激

須賀川市大黒町　長谷川和美さん

八月五日（火）、朝刊を見て驚き。「涼を求めて・鮫川村の滝めぐり」――。

鮫川村は夫の実家。その縁あって、鮫川村には大小さまざまな滝があることを知っていました。その中でも、私の一番好きな滝は「江竜田の滝」です。

春は、水の流れに新緑が映え、生きている自然を目の当たりにすることができます。夏は、白い水しぶきのはねる音に男性の強さを感じ、心がしずまります。秋は、紅葉の彩りと白糸の流れに女性の姿を見ることができます。冬は、自然が造る氷の芸術品に触れることができます。

夕食の支度もそこそこに、胸をおどらせながらテレビの前に座っていました。江竜田の滝が、画面いっぱいに映し出されると、私は思わず「ワァー」という歓声を上げてしまい、庭で遊んでいた八歳になる娘が「お母さんどうしたの」とびっくりして飛んで来たほどでした。画面の一つ一つに季節感があふれ、いつの間にか「まだ終わらないで、もう少し、もう少し」と祈る思いで見ていました。

帰宅した夫に、さっそく話をしますと、とてもうれしそうに聞いてくれました。

今度の週末、涼を求めて鮫川村の滝めぐりをしたいと思います。

広報紙が取材の参考に

福島中央テレビ報道部　遠藤敦さん

八月五日（火）のゴジてれシャトル「涼を求めて」という企画で鮫川村の滝を特集しました。

全部で四つの滝を取材、放送したのですが、一番印象的だったのは「江竜田の滝」です。

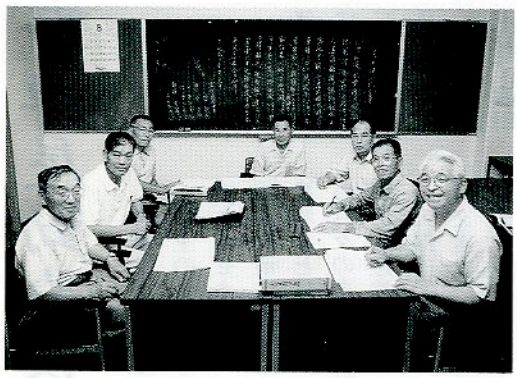
江竜田の滝では、豪快な流れが楽しめる「二見ケ滝」や、滝の流れからも涼しさを感じとれる「そうめんの滝」など、ほんの少し遊歩道を歩いただけでいろんな形の滝がいくつも見ることができます。

私たちが取材した日は、県内各地で三十度を超え、かなり暑い日でしたが、取材中思ったほど暑さを感じなかったのは、すばらしい滝を眺めたり、流れの音を聞きながらの取材だったからでしょう。

江竜田の滝以外にも「広報さめがわ」七月号で存在を知った、村の人さえもほとんど知らない小さな滝なども取材しましたが、案内の看板がないため場所が分かりにくかったり、滝の下まで降りる歩道がなかったりと、せっかくの美しい滝をもっと見学しやすいように整備してほしいとも感じました。



テレビ取材の参考になった7月号



仲間たち

古文書を読む会

会　　費　芳賀　弘（江竜田）
会　　員　13人
発足年月　平成元年12月
連 絡 先　村歴史民俗資料館（☎49－3106）
定 例 会　毎月第2水曜日　午後7時
　　山村開発センター
会　　費　年 1,000円

歴史を実感

平成元年に村教育委員会が行った「古文書解読講座」で、先人が残した貴重な記録にふれ、その生きた歴史を実感する喜び味わいました。その成果を生かし、一層技量を高めたいと考え本会が発足しました。

村が進めている村史編さんへの協力も行っており、現在まで500点を越す古文書を解読してきました。

定例会のほかに、村外現地研修会や近隣町村との交流研修会を行い見聞を広めるとともに、会員相互の親睦を深めています。

村の歴史を実感したい方、特に若い方を募集しています。私たちと一緒に歴史を探ってみませんか。

暮らしのワンポイント

緑茶の効用

風邪から成人病の予防まで

健康飲料として、さまざまなお茶が販売されていますが、なによりの健康茶として見直されているのは、私たちに最もなじみの深い緑茶です。

昔から「お茶屋さんは風邪をひかない」といわれていま

東京鮫川会からこんにちは

ふる里の風



阿久津　健さん
埼玉県北葛飾郡在住
西山字折戸出身

私は、ふる里を離れて46年になります。３月の梢吹く風が胸にしみるそんな朝でした。「頑張れよ」と、吹く風が勇気づけてくれました。上京以来、私の心に、あのふる里の風を忘れる日はありません。

春には桜や山吹、そしてすべての花が咲き競い、夏には香り漂うヤマユリや緑の雫したたる木立の中に降る蝉しぐれ。夜ともなれば、妖精のような蛍の乱舞。秋は紅葉に飛び交う赤とんぼ。晩秋ともなると家々の軒先につるした大根や干し柿が風物詩でした。冬は山にさえずるカケスとモズの声。凍てつくような寒さの中にも人の温もりがありました。目を閉じると、ふる里の風景が走馬灯のように浮かんできます。

会社に勤務しておりました45年間、何度か大きな壁に突き当たり、挫折しそうになりました。そんなときにも決まってふる里の風が、「お前はそのようないい加減な男だったのか」と励ましてくれたものでした。現在私があるのも、父母にも似たふる里があればこそと感謝しております。

今の私は、花鳥風月をたしなみながら、町の高齢者事業団の理事を務め、ふれあいの場を求め活動しております。しかし、１日足りとてふる里を忘れることはないでしょう。私を育んでくれたふる里を……。



矢吹（やぶき）　潤平（じゅんぺい）　くん

平成6年2月1日生まれ
おとうさん　勝　則さん
おかあさん　登喜子さん
（大塩）

潤平くんの自慢

潤平くんは、牛乳がとっても大好きです。毎日ひたすら飲んだおかげで、むし歯が１本もありません。これからも、牛乳をいっぱい飲んでまだまだむし歯にならないぞ。

こちら窓口

6月21日から
7月20日までの届出

●お誕生おめでとう

住所	赤ちゃんの名前	月/日	保護者
関口	下重（しもえ）なぎさ	7/3	正人

●おくやみ申し上げます

住所	亡くなられた方	月/日	年齢
戸草	芳賀　三枝	6/21	73
薄久保	高木　キミ	6/23	84
落合	本郷ヨシエ	6/27	69
折戸	阿久津マサ子	7/1	61
辺栗	生田目チヨ	7/5	93

〔訂正とおわび〕

七月号の「おくやみ申し上げます」の中で、小山田忠一さんの年齢「61」は「75」の誤りでした。ここに訂正し、おわびいたします。

す。緑茶には風邪や動脈硬化の予防に役立つビタミンCをはじめ、各種のビタミンが含まれているためです。また、フッ素化合物が豊富なため、虫歯の予防にも役立ちます。お茶で口をゆすいだり、うがいをしたりすることは、はしたない行為とされていますが、虫歯や口臭の防止には十分に意味のあることなのです。さらに、緑茶の渋み成分であるカテキンという成分にも、歯を強くし、虫歯の原因となる雑菌を殺す作用があります。近年、緑茶が再評価されてきている理由の多くは、このカテキンにあります。カテキンには、食中毒菌などの殺菌、インフルエンザなどウイルス感染の防止のほか、高血圧、心臓病などの成人病を予防する働きがあるのです。

また、細胞の突然変異を抑える作用があり、がんの発生防止に効果があると考えられています。

もちろん、これらの効用は、すぐに現れるものではありません。また、大きな効果を期待し、無理にたくさん飲んでも、それを長続きさせることはできません。飲む量や濃さを好みに合わせ、香りと味を楽しみながら飲みましょう。

今月の納付

村県民税　2期分
国民健康保険税　3期分
国民年金保険料　8月分
納期限　8月25日（月）
納期内に納めましょう。
口座振替の方は残高確認を。



保健

住民健康診査

九月三日（水）から十二日（金）まで下表の日程で、住民健康診査（基本健康診査、結核・肺がん・胃がん・大腸がん検診）を行います。最寄りの会場で受診してください。

なお、基本健康診査の結果に基づき、今年度から「生活習慣改善のための注意事項」をお送りします。

基本健康診査

▼検査内容＝身体測定、血圧測定、尿検査、耳打診、血液検査、眼底検査、心電図検査 **▼対象者**＝四十歳以上の人 **▼受診料**＝七百円（ただし、七十歳以上の人、六十五歳以上で一定の障害のある人は無料）

結核検診

▼検査内容＝胸部X線撮影 **▼対象者**＝十五歳以上の人 **▼受診料**＝無料

肺がん検診

▼検査内容＝胸部X線撮影 **▼対象者**＝四十歳以上の人 **▼受診料**＝無料

胃がん検診

▼検査内容＝X線撮影 **▼対象者**＝四十歳以上の人 **▼受診料**＝七百円（国保の人、七十歳以上の人、六十五歳以上で一定の障害のある人は無料）

大腸がん検診

▼検査内容＝便採取 **▼対象者**＝四十歳以上の希望者 **▼受診料**＝五百円

〔問い合わせ〕 住民課保健係（内線217）

住民健康診査日程表

月日（曜）	対象地区	会場
9月3日（水）	青生野	青生野集落センター
4日（木）	渡瀬	渡瀬区集落センター
5日（金）	西山	西山小学校体育館
8日（月）	富田	富田小学校体育館
9日（火）	赤坂東野（官代・広畑除く）	発一開タ村ンセ山
10日（水）	赤坂西野	赤坂西野区民センター
11日（木）	赤坂中野（新宿・道少田除く）・石井堂・官代・広畑	発一開タ村ンセ山
12日（金）	新宿・道少田	発一開タ村ンセ山

年金

老齢基礎年金とは

老齢基礎年金は、受給資格期間が二十五年以上ある人に六十五歳から支給されます。

受給資格期間とは

①国民年金保険料を納めた期間（第三号被保険者期間を含む）、国民年金保険料を免除された期間／②昭和三十六年四月からの厚生年金や共済組合などの加入期間／③合算対象期間（昭和三十六年以降）＝▼サラリーマンの配偶者で国民年金に任意加入しなかった期間（昭和六十一年三月まで）▼学生で任意加入しなかった期間（平成三年三月まで）▼海外に居住していて任意加入しなかった期間

※合算対象期間は受給資格期間として算入されますが、年金額の計算には入りません。

満額の年金を受けるには

老齢基礎年金を受けるには、受給資格期間が二十五年必要ですが、満額の年金を受けるには二十歳から六十歳まで四十年間の保険料納付が必要です。なお、昭和十六年四月一日以前に生まれた人は四十年間加入できないため、別に定められた加入可能年数をすべて納付すれば満額となります。

65歳以上が原則

老齢基礎年金は、六十五歳から受けるのが原則ですが、六十歳から繰り上げ受給できます。ただし、請求時の年齢による支給率で減額されます。

〔支給率〕 六十歳＝五八％、六十一歳＝六五％、六十二歳＝七二％、六十三歳＝八〇％、六十四歳＝八九％

〔問い合わせ〕 農林課林業係（内線241）または、県南林業事務所（☎33-2121）

試験

狩猟免許試験

平成九年度の狩猟免許試験が次により実施されます。

〔受験資格〕 県内に住所がある者

〔試験日及び会場〕 十月三日（金）・郡山市労働福祉会館

〔試験申し込み〕 県南林業事務所に所定の申請書、受験票などを請求し、申し込んでください。

〔申し込み期限〕 八月十三日（水）から九月十二日（金）まで

宝くじの収益金は、私たちの街の公共事業に役立てられています。
第370回全国自治宝くじ
地方自治法50周年記念宝くじ（シートくじ）
シートで買えば、賞金2倍！
1等・前後賞合わせて（シートで買えば）
1億2,000万円
50周年記念賞（シートで買えば）
50万円×4,000シート
発売期間
9月2日(火)～9月11日(木)
抽せん日：9月12日（金）売り切れの際は、ご容赦下さい。
1シート400円（1枚200円）
発売 全国都道府県及び12指定都市
宝くじ
地方自治法施行50周年
＊この広報事業は財団法人全国市町村振興協会の後援を得ています。

医療

国民健康保険 外来時の薬剤費

法律の改正により、平成九年九月一日から、病気やけがで外来診療を受け、薬を処方してもらうとき、これまでの定率負担（老人保健は定額負担）に加え、その日数や薬の種類などに応じて、別途負担していただくことになります。負担額は表のとおりです。

外来薬剤の自己負担金

内服薬（1日分）		外用薬（1回分）	
1種類	0円	1種類	50円
2～3種類	30円	2種類	100円
4～5種類	60円	3種類以上	150円
6種類以上	100円	頓服薬（1回分）	
		1種類	10円

老人保健医療の自己負担金

七十歳（一定の障害のある人は六十五歳）以上の方が、老人保健で医療を受けるときの自己負担金が、平成九年九月一日から表のとおり変わります。

また、このほかに、外来時の薬代は別途負担となります。

なお、入院の際の食事代は、従来どおり別途定額の負担となります。

老人保健の自己負担金

	改正前	改正後
外来	1カ月 1,020円	1回 500円 同じ病院などで1カ月4回まで負担。（最高2,000円）
入院	1日 710円	1日 1,000円

相談

家出人・行方不明者を捜す相談所

棚倉警察署では、八月一日から三十一日までの期間中、「家出人・行方不明者を捜す相談所」を開設しています。あきらめず、もう一度捜してみませんか。

〔問い合わせ〕　棚倉警察署（☎33－3241）

心配ごと相談

〔日時〕　九月十九日（金）午前十時～午後三時（午後一時からは橋本登行弁護士が相談を受けます）

〔場所〕　山村開発センター

寄付

ありがとうございました

（敬称略）

▼社会福祉事業のために

・戸草　芳賀　逸義
・薄ケ久保　高木　好勝
・落合　本郷　公市
・白河市　阿久津良一
・辺栗　生田目旭
・真坂　湯坐　好郎

8月21日は「福島県民の日」

8月21日を「福島県民の日」とする条例が公布されました。

明治9年8月21日に、旧福島県、磐前県、若松県の3県が合併し、ほぼ現在の福島県の姿になりました。

福島県民の日は、福島県の誕生日ともいえるこの日にちなんだもので、郷土について理解と関心を深め、ふるさとを愛する心を育み、自然意識を高めるとともに、県民が心を合わせて、より豊かな福島県を築き上げる日として制定されたものです。

県では、8月21日に県文化センターで制定記念式典“うつくしま、ふくしま。”県民運動推進大会を行います。また、この日は、県の公共施設が無料開放されるほか、8月中に各種記念事業が開催されます。

〔問い合わせ〕　県民県民生活課県民文化係（☎0245-21-7179）

やくぼの豆知識

ショートステイ事業

介護者の都合により、寝たきりなどの高齢者を一時的に介護できない場合に施設に入所していただき、家族の介護の負担の軽減を図ります。

〔サービスの内容〕

介護者の病気、冠婚葬祭などの社会的理由や、介護者の介護疲れによる休養や旅行などの私的理由で一時的に家庭での介護ができない場合に、在宅の高齢者などを、ひだまり荘や特別養護老人ホームでお世話します。期間は、原則として7日以内。ただし、村長が認める場合には、必要最小限の範囲で延長することができます。

▼社会的理由＝疾病、出産、冠婚葬祭、事故、災害、失踪、出張、転勤、看護、学校などの公的行事への参加

▼私的理由＝介護疲れによる休養、旅行など

〔利用できる方〕

おおむね六十五歳以上の寝たきり、痴呆、虚弱など、日常生活に支障がある高齢者や身体障害者

〔費用負担額〕

一日当たり二千百九十円に利用日数を乗じた額

＊――――＊

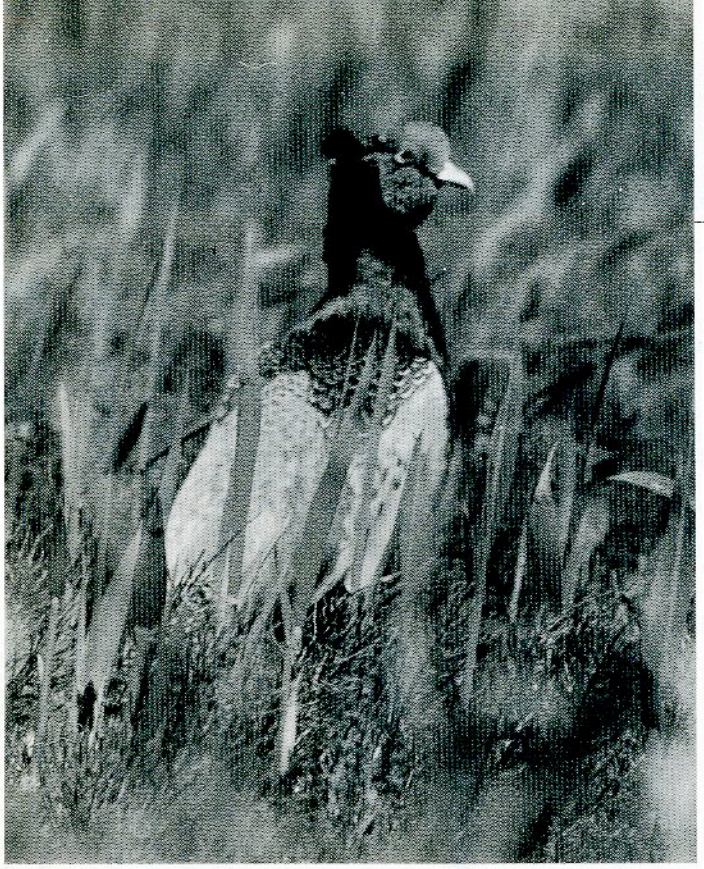
〔申し込み・問い合わせ〕

住民課福祉係（内線233）または高齢者総合福祉センター「ひだまり荘」（☎49－3600）

平成9年8月号 No.524
発行・編集／鮫川村役場総務課

〒963-84 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿39-5
TEL (0247)49-3111 FAX (0247)49-2651

印刷／佐藤印刷所



バードウオッチング

鮫川の野鳥

キ　ジ（キジ科）

日本の国鳥であり、鮫川村の鳥にもなっているキジは、桃太郎の話にも出てくるなど、昔からなじみの深い鳥である。オスは金属光沢のある美しい羽と、赤い顔に長い尾を持つ。春先、求愛の羽ばたきの音が朝の暗いうちからよく響き、「ホロを打つ」と言われる。メスは、オスと比べてずっと小さく、羽の色も地味である。人里近くの農耕地や明るい林に住み、夏には、数羽のヒナを連れたメスの姿を見かける。

写真・文／鈴木　一さん（村内鍬木田在住）

ごみ収集日（8・9月）

収集場所	種別	8月	9月
江竜田～中野町～福原～鍬木田～広畑～新宿～道少田～大塩コース	可燃物	4.7.11.14.18.21.25.28	1.4.8.11.18 22.25.29
	不燃物	1.29	12.26
さぎり荘～村営住宅赤坂中野団地コース	可燃物	4.7.11.14.18.21.25.28	1.4.8.11.18 22.25.29
	不燃物	13.27	10.24
鮫川分校（可燃物木曜のみ）鮫川中学校コース	可燃物	4.7.11.14.18.21.25.28	1.4.8.11.18 22.25.29
	不燃物	14.28	11.25
関下～越虫～青生野小学校～世々麦～葉貫～蕨ノ草～中沢～関口コース	可燃物	6.13.20.27	3.10.17.24
	不燃物	13.27	10.24
真坂～押目～酒垂～塚本～荻ノ沢～折戸～水口～官沢コース	可燃物	6.13.20.27	3.10.17.24
	不燃物	14.28	11.25
官代～遠ケ竜～大石草～大根屋敷～内ケ竜コース	可燃物	6.13.20.27	3.10.17.24
	不燃物	1.29	12.26
石井草～大久保～鬼越～赤柴～沼野沢～岩野草～薄ケ久保コース	可燃物	6.13.20.27	3.10.17.24
	不燃物	22	19

休日のお医者さん

月日(曜)	病・医院名	所在地	電話番号
8月17日(日)	あらまちクリニック	棚倉町	33-8018
	石川医院	塙町	43-0003
	田中内科医院	石川町	26-3333
8月24日(日)	東白川中央病院	棚倉町	33-3263
	木村医院	矢祭町	46-3528
	中島病院	石川町	26-3415
8月31日(日)	藤田医院	棚倉町	33-2013
	金沢医院	矢祭町	46-2312
	大野病院	石川町	26-1181
9月7日(日)	あらまちクリニック	棚倉町	33-8018
	東舘診療所	矢祭町	46-3165
	おりの整形外科クリニック	石川町	26-5050
9月14日(日)	杉山胃腸科外科皮膚科	棚倉町	33-7551
	中島医院	塙町	43-0373
	中島病院	石川町	26-3415
9月15日(月)	和田医院	棚倉町	33-2012
	車田病院	塙町	43-1019
	やまもと内科クリニック	石川町	26-8311
9月21日(日)	勝田医院	棚倉町	33-3008
	塙厚生病院	塙町	43-1145
	愛恵会大野診療所	石川町	26-2615

今月の人口（7月1日現在）

人口	男	女	世帯
4,956人（－9）	2,447人（－4）	2,509人（－5）	1,122人（＋1）

編集後記

先日、大妻女子大主催の食文化交流会に参加しました。都会での生活を経験したことのない私にとって、そこでの交流は新たな発見の場でもありました。私たちの日常生活の中では何気ないことでも、彼女たちにとっては、その一つ一つが感動だった様子で、新鮮な野菜を食べては感激し、初めて目にする蛍の舞に感激。つくづくこの地域の良さを感じることができました。私たちの日常生活を、少し角度を変えて見てみれば、違った発見があるのかもしれません。（舟木）